

四半期報告書

(第35期第3四半期)

自 平成26年10月1日

至 平成26年12月31日

ピー・シー・エー株式会社

東京都千代田区富士見一丁目2番21号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 4
- (7) 議決権の状況 5

2 役員の状況 5

第4 経理の状況 6

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 7
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 9
 - 四半期連結損益計算書 9
 - 四半期連結包括利益計算書 10

2 その他 13

第二部 提出会社の保証会社等の情報 13

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【四半期会計期間】	第35期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	ピー・シー・エー株式会社
【英訳名】	PCA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水谷 学
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見一丁目2番21号
【電話番号】	03（5211）2711
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐藤 文昭
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区富士見一丁目2番21号
【電話番号】	03（5211）2711
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐藤 文昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第3四半期連結 累計期間	第35期 第3四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自平成25年 4月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 4月1日 至平成26年 12月31日	自平成25年 4月1日 至平成26年 3月31日
売上高 (千円)	6,662,161	5,861,782	10,474,591
経常利益又は経常損失(△) (千円)	426,524	△322,828	1,138,580
四半期(当期)純利益又は四半期純 損失(△) (千円)	220,706	△245,215	604,492
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	436,363	△175,894	753,546
純資産額 (千円)	11,345,795	11,192,217	11,662,978
総資産額 (千円)	15,087,505	14,973,951	16,775,275
1株当たり四半期(当期)純利益金 額又は四半期純損失金額(△) (円)	32.21	△35.79	88.23
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	74.3	74.0	68.8

回次	第34期 第3四半期連結 会計期間	第35期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 10月1日 至平成26年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	55.73	△1.79

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済状況は、原油安、円安等の外的環境の大幅な変化の下、消費税率引き上げによる需要の停滞が続いており、引き続き予断を許さない状況と認識しております。

情報サービス産業におきましては、パソコン出荷の前年割れが続く等、前期の消費税率改正や、ウィンドウズXPサポート終了に伴う特需等の要因による反動が顕著となる中、厳しい環境下に置かれていると考えております。

当社グループでは、前期の好調な売り上げ業績に比し、第2四半期連結会計期間から、予想通り徐々に反動が見られるようになってまいりました。更に、安倍政権による消費税率10%引き上げ時期延期の決定により、第3四半期終盤の商戦以降においては、急激な鈍化が見られております。

そのような中で、引き続き好調に顧客数を伸ばしている「PCAクラウド」においては、昨年11月に受託業務の内部統制保証報告に関する国際的なセキュリティ基準である「SOC2報告書」を取得する等、その信頼性を高めており、今後の更なる展開への担保としております。

また、昨年12月5日には、当社株式が東京証券取引所市場第一部指定銘柄に指定されました。これまでのステークホルダー各位からのご厚情に感謝するとともに、東京証券取引所市場第一部上場記念バージョンアップキャンペーン等の施策により、大商戦期である第4四半期における巻き返しを図る所存でございます。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高 5,861,782千円（前年同期比12.0%減）、営業損失 338,902千円（前年同期は営業利益 405,044千円）、経常損失 322,828千円（前年同期は経常利益426,524千円）、四半期純損失 245,215千円（前年同期は四半期純利益 220,706千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①「一般企業向け」

中堅中小規模の企業一般に向けたソフトウェア販売及び統合型基幹業務ソフトである「PCA Dream21」の販売等を主とする一般企業向け事業につきましては、売上高は4,303,880千円（前年同期比16.5%減）、セグメント利益は306,462千円（前年同期比75.0%減）となりました。

②「非営利向け」

公益法人、社会福祉法人等の非営利法人に対するソフトウェア販売を中心とした非営利向け事業につきましては、売上高は613,301千円（前年同期比14.1%減）、セグメント利益は273,268千円（前年同期比27.7%減）となりました。

③「メディカル」

子会社である株式会社マックスシステムと共同して営む、医療機関向け医療情報システムに関するメディカル事業につきましては、売上高は330,448千円（前年同期比27.6%減）、セグメント損失は162,538千円（前年同期はセグメント損失 59,609千円）となりました。なお、「メディカル」は特に下期に案件が集中する見込みであります。

④「クラウド」

インターネット上で業務アプリケーション等を自由に活用する方式である「クラウド」の一形態であるサービス型ソフトウェア「SaaS」に関するクラウド事業につきましては、売上高は663,121千円（前年同期比74.2%増）、セグメント利益は305,590千円（前年同期比635.0%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、258,212千円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

(外部環境要因)

当社グループを取り巻く事業環境は、会計基準の変更、税法等の改正及び各種制度の改正などによって、ソフトウェアの更新需要が大きく変動する傾向があり、当社グループの経営成績に重要な影響を及ぼすことが考えられます。

(内部環境要因)

当社グループでは、パッケージソフトウェアの製品開発において、「研究開発費等に係る会計基準」(企業会計審議会 平成10年3月13日)に基づき費用配分の会計処理をしております。

当社グループにおける製品開発については、既存のソフトウェアに新しい機能等を付加した、いわゆるアップグレード版のソフトウェアの開発もおこなっており、そのような場合には、次期以降の収益との対応を図る観点から、無形固定資産に資産計上しております。

従いまして、製品開発の状況によっては、当期の費用となるものと、資産計上をしてから次期以降の費用になるものとの金額の変動により、当社グループの経営成績に重要な影響を及ぼすことが考えられます。

(経営戦略の現状と見通し)

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。なお、上記の見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの資金状況は、流動比率が340.9% (流動資産8,260,467千円÷流動負債2,423,166千円) となっており、十分な流動性を確保しているものと認識しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,695,000
計	23,695,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,700,000	7,700,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	7,700,000	7,700,000	—	—

平成26年12月5日付で東京証券取引所市場第二部から同取引所市場第一部銘柄に指定されました。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	—	7,700,000	—	890,400	—	1,919,120

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(注)主要株主であった川島正夫氏(当社元相談役)は平成26年6月27日に逝去されました。川島正夫氏名義の株式に係る相続手続は、本報告書提出日現在未了であります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 848,600	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 6,849,800	68,498	—
単元未満株式	普通株式 1,600	—	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	7,700,000	—	—
総株主の議決権	—	68,498	—

(注) 単元未満株式数に、自己株式2株を含んでおります。

② 【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
ピー・シー・エー株式会社	東京都千代田区富士見 1-2-21	848,600	—	848,600	11.02
計	—	848,600	—	848,600	11.02

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員 の 異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,606,279	5,618,169
受取手形及び売掛金	2,633,015	1,074,479
たな卸資産	40,841	49,989
繰延税金資産	802,969	911,670
未収還付法人税等	-	331,121
その他	310,023	275,961
貸倒引当金	△1,242	△924
流動資産合計	10,391,887	8,260,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,410,552	1,410,440
土地	2,794,424	2,794,424
その他(純額)	122,233	196,792
有形固定資産合計	4,327,210	4,401,658
無形固定資産		
のれん	197,648	123,795
その他	555,108	699,084
無形固定資産合計	752,757	822,879
投資その他の資産		
その他	1,303,869	1,489,396
貸倒引当金	△449	△449
投資その他の資産合計	1,303,420	1,488,946
固定資産合計	6,383,388	6,713,484
資産合計	16,775,275	14,973,951
負債の部		
流動負債		
買掛金	216,553	99,910
前受収益	1,667,533	1,487,076
未払法人税等	627,954	2,541
賞与引当金	191,439	53,671
役員賞与引当金	21,010	18,874
その他	1,130,808	761,092
流動負債合計	3,855,300	2,423,166
固定負債		
長期前受収益	228,669	367,992
長期末払金	127,235	-
役員退職慰労引当金	129,363	136,496
退職給付に係る負債	731,358	805,624
資産除去債務	40,370	48,454
固定負債合計	1,256,996	1,358,567
負債合計	5,112,297	3,781,733

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	890,400	890,400
資本剰余金	1,919,120	1,919,120
利益剰余金	9,589,949	9,052,510
自己株式	△1,039,040	△1,039,092
株主資本合計	11,360,428	10,822,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	175,363	250,690
その他の包括利益累計額合計	175,363	250,690
少数株主持分	127,186	118,589
純資産合計	11,662,978	11,192,217
負債純資産合計	16,775,275	14,973,951

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	6,662,161	5,861,782
売上原価	2,368,772	2,275,659
売上総利益	4,293,389	3,586,123
販売費及び一般管理費	3,888,344	3,925,026
営業利益又は営業損失(△)	405,044	△338,902
営業外収益		
受取利息	3,732	2,968
受取配当金	6,052	10,452
受取賃貸料	11,397	12,017
その他	2,029	2,323
営業外収益合計	23,211	27,761
営業外費用		
固定資産除却損	1,568	807
その他	162	10,880
営業外費用合計	1,730	11,687
経常利益又は経常損失(△)	426,524	△322,828
特別損失		
投資有価証券評価損	2,686	-
特別損失合計	2,686	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	423,838	△322,828
法人税等	195,751	△71,607
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	228,087	△251,221
少数株主利益又は少数株主損失(△)	7,380	△6,005
四半期純利益又は四半期純損失(△)	220,706	△245,215

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	228,087	△251,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	208,276	75,327
その他の包括利益合計	208,276	75,327
四半期包括利益	436,363	△175,894
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	428,983	△169,888
少数株主に係る四半期包括利益	7,380	△6,005

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に基づく割引率から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が18,249千円増加し、利益剰余金が11,314千円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	291,642千円	369,684千円
のれんの償却額	90,611千円	73,853千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	212,411	31.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	280,908	41.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

普通配当31円00銭に記念配当を10円00銭を加え、合計41円00銭としております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 (注2)
	一般企業 向け	非営利向 け	メディカル	クラウド	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	5,111,807	713,528	456,123	380,701	6,662,161	—	6,662,161
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	41,463	462	—	—	41,925	△41,925	—
計	5,153,270	713,990	456,123	380,701	6,704,086	△41,925	6,662,161
セグメント利益又 は損失(△)	1,225,171	377,887	△59,609	41,574	1,585,023	△1,179,979	405,044

(注1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,179,979千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない広告宣伝費及び一般管理費であります。

(注2) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 (注2)
	一般企業 向け	非営利向 け	メディカル	クラウド	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	4,255,410	612,802	330,448	663,121	5,861,782		5,861,782
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	48,470	499	—	—	48,969	△48,969	—
計	4,303,880	613,301	330,448	663,121	5,910,752	△48,969	5,861,782
セグメント利益又 は損失(△)	306,462	273,268	△162,538	305,590	722,782	△1,061,685	△338,902

(注1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,061,685千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない広告宣伝費及び一般管理費であります。

(注2) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)	32円21銭	△35円79銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	220,706	△245,215
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	220,706	△245,215
普通株式の期中平均株式数(株)	6,851,568	6,851,422

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月12日

ピー・シー・エー株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野口 昌邦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 淳一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているピー・シー・エー株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ピー・シー・エー株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【会社名】	ピー・シー・エー株式会社
【英訳名】	PCA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水谷 学
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見一丁目2番21号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長水谷学は、当社の第35期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。